

## 第一中学校

10月8日～10月12日(4泊5日)

## ○日程表

10月8日(水)		10月9日(木)		10月10日(金)	
7:00	一中校庭集合・出発式	6:00	起床・寝具整理・健康観察	6:00	起床・寝具整理・健康観察
8:00	バス出発	7:00	朝食 ホテル退館式	7:00	掃除・農家のお手伝い
9:00	調布インター	8:00	移動	8:00	朝食準備・朝食
11:00	豊科インター	9:00	中谷郷おらが里着	9:00	八方尾根自然探究路
12:00	白馬ジャンプ台到着	10:00	林業体験1(下草刈り・枝打ち)	10:00	トレッキングコース
13:00	昼食(弁当)ジャンプ台見学	12:00	昼食(バーベキュー)	12:00	昼食
14:00	白馬体験実習館	13:00	林業体験2(炭焼き・丸太切り チェーンソー体験)	13:00	農作業体験1(稲刈り・脱穀)
15:00	白馬村ソーセージ作り	14:00		17:00	夕食づくり
16:00	白馬村出発	16:00	中谷郷おらが里発	18:00	入浴・夕食
17:00	ホテル着 入館式 入浴	17:00	白馬開村式 民宿農家へ移動	19:00	農家の方々との交流II
18:00	夕食	18:00	夕食づくり	21:00	明日の準備
19:00	星空見学会	19:00	農家の方々との交流I	22:00	消灯
21:00	明日の準備	21:00	明日の準備		
22:00	消灯	22:00	消灯		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

## ① 事前の学習内容

- ・「自然・友情・学び」をテーマに生徒が中心となって主体的に取り組んだ。
- ・各教科の連携学習
  - 国語：パンフレット「熊と森と人」で自然と人間の共生について学習した。
  - 社会：長野県や白馬村の地理や地形、農業から地元産業について学習した。
  - 理科：高山植物や自然界の食物連鎖について \*「白馬八方池にオタマジャクシがいる。なぜ両性類が2,000mの山岳地帯にいるのか」という課題を提示した。
  - 技術家庭：木材の特徴、ソーセージの作り方や農家で作る食事や郷土料理について学習した。
  - 美術：わら細工や簡単なスケッチの方法について学習した。
  - 体育：トレッキングの方法について、登山家を招いてお話を聞いた。
  - 総合：環境学習について\*特に炭焼きにおける環境学習を事前に学習を行った。
- ・民宿農家の方々による農作業の方法と現在の農業の在り方のレクチャー
  - 出発2週間前に農家の方に、実際の農作業の方法や作業内容など丁寧に教えていただき、その際、日本の農業に関する冊子「お米が実った」というテキストを使って指導を行った。

# 長野県北安曇郡白馬村

参加人数 男子38名 女子34名  
計72名

10月11日(土)		10月12日(日)	
6:00	起床・寝具整理・健康観察	6:00	起床・寝具整理・健康観察
7:00	掃除・農家のお手伝い	7:00	掃除・農家のお手伝い
8:00	朝食準備・朝食	8:00	朝食準備・朝食
9:00	農作業体験2(畑仕事・キノコ刈り等)	9:00	各農家毎のワラ細工作り体験
12:00	昼食	12:00	昼食(白馬SPF豚の豚汁作り)
14:00	郷土料理体験(畑仕事・キノコ刈り等)	13:00	白馬閉村式
17:00	夕食づくり	14:00	豊科インター
18:00	入浴・夕食	17:00	調布インター
19:00	交流レク		一中校庭到着・解散式
21:00	明日の準備		
22:00	消灯		

## ② 事後の学習内容

- ・セカンドスクール交流会

お世話になったすべての農家の方々を学校にお招きし交流会が行われた。200枚近い写真のスライドショーを通じてのセカンドスクールの振り返りを行ったり、民宿農家ごとにセカンドスクールで経験し学んだことを報告書を作成し、発表会(ポスターセッション)を行った。特に、今年度は、寸劇を取り入れた発表があり和やかな交流会ができた。また、民宿農家の方が持参した今年収穫された餅米を使って餅つき大会を催し交流を深めた。



【セカンドスクールの成果を発表】

- ・民泊農家への感想文と報告書

生徒一人一人がお世話になった農家の方々にお礼の言葉と感想文を作成し、セカンドスクール報告書とともに手渡した。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1、トレッキング

秋晴れと紅葉の織りなす八方尾根トレッキングコースは、生徒たちに自然の美しさと雄大さ

を感じさせたにちがいない。八方池山荘から歩き始め、途中小さな雪渓を横切り、八方池付近からは、3,000m級の北アルプスを眺めることができ、その美しさに感激したと思う。年々コースは整備されており、生徒達は元気よくトレッキングを楽しんでいた。

## 2、星空見学会

1日目のホテルのゲレンデで星空見学会を行った。見学に先がけてコンピューターシミュレーションソフト「ステラナビゲーター」を使って、スクリーンに現在の星空を映しだし、秋の星座について学習を行った。また、秋の星座に関するギリシャ神話を語りながら、興味・関心を高めた。実際の星空では、秋の代表的な「ペガサス座」や「アンドロメダ座」が確認できた。

## <自然体験活動>

### 1、農業体験

農作業は農家ごとに「稲刈り」「畑仕事」「豆やキノコの収穫」「さつま芋掘り」など、いろいろな組み合わせで経験をさせた。特に「稲刈り」では、手刈りからバインダー、コンバインまで行い、広大な農地に豊かに実った稲穂を刈り取った。また、見たことがないような大きなさつま芋を掘り起こし、焼きイモにして頬張る生徒の姿は幸せそうであった。



【バインダーを使った稲刈り】

### 2、林業体験

林業体験は丸1日行った。「中谷郷おらが里」での林業体験は6年目になる。山小屋に「武蔵野市立第一中学校」という看板が掲げられている。林業従事者たちから基本的な林業体験の作業の方法を教わり、各グループ毎に作業が始まった。頭にはヘルメットをかぶり、手にカマを持つという出で立ちで否応なしに生徒に緊張が走った。山間部に入り、過去6年間、先輩たちが美しくしてきた里山の森林を見て「よしやるぞ!」という意欲に満ちあふれていた。「下草刈り」「枝打ち」「丸太切り」「チェーンソー体験」「炭焼き」「蒔き割」など活動を行い、1日山の中の生活を行った。今年度は、特に、林業体験に必要な機材や道具を一新していただき、一人あたりに体験活動時間が大幅に増加した。恒例の昼食にでたキノコ汁は最高のご馳走であった。



【チェーンソーの実習】

## <生活体験活動>

### 1、食肉加工体験

今年度、はじめて食肉加工体験として「ソーセージ作り」の体験活動を行った。SPF（無菌）の豚は、白馬豚というブランドで地場産業の一翼を担っている。その豚を使ったソーセージ作りは、材料を「こねる」「詰める」「しばる」「ゆでる」など作業を体験した。できたてのソーセージは香りが良かった。生徒は、はじめての経験に楽しんで作業を行った。



【ソーセージ作り】

### 2、郷土料理体験、その他

郷土料理体験でも「おやき」「おはぎ」「そば打ち」「紫米のおこわ」「そば粉たこ焼き」「そばクッキー」などバリエーションが充実していた。さらに、わら細工では、一輪差しを丁寧に指導されて、一人一人素晴らしい作品に仕上がった。また、農家の方々との交流会では、

白馬の歴史や長野オリンピック当時の様子、民宿発祥の地が白馬であることなど、こたつなどを囲んで交流を深めた。6年目ということで、農家の方々もノウハウができ、学校側も農家の方々と事前に過去の経験や反省を踏まえ綿密に打合せを行ったため、活動内容は質と量ともに充実していた。

## ○生徒の感想

キャッチフレーズであった「自然かじれ」は達成できました。八方尾根へのトレッキングで見た雲の切れ目からの白馬三山は思い出に残るものでした。林業体験では日本の昔ながらの自然との共生を肌で感じることができました。ぼくが目標としてた「新しい発見」もたくさんありました。まず、それは**自己管理能力**です。次に**段取り力**です。最後に**修正力**です。今回を振り返ってみると、今まで絶対できないと思っていたことが自分にもできると気付くことができました。このことは、大きな自信へとつながったと思います。この自信を力に背伸びせずに一步一步確実に成長し、大事なところでその力を発揮することができました。これからも、この力を発揮しながら仲間と一緒に、一中を築いていきたいです。（実行委員長の言葉―一部抜粋―）

## ○保護者の感想

保護者アンケートにおいて、95%以上の保護者が肯定的に評価している。家庭でセカンドの様子を報告する生徒が多かったようだ。

## ○総合的な学習の時間との関連について

本校の総合的な学習のねらいの1つに「プレゼンテーション能力の育成」がある。このねらいを達成するために1年生から3年生までポスターセッションを行っている。3学期、1年生は「環境と食」というテーマでポスターセッションを行う。そこで、前段階として2学期、セカンドスクールで学んだことをテーマに民宿ごとにミニポスターセッションを行った。今後、白馬地域の「環境と食」について関連させて、武蔵野市地域の「環境と食」について学習を進めていく。

## ○小学校セカンドスクールとの関連について

「楽しい思い出」の多い小学校での体験活動や民泊の生活から、困難は伴うが、生徒の考えや自主的な判断を求める活動を重んじたセカンドスクールへ展開を図る。

## ○次年度に向けての反省・課題

- ・6年間の実績から引き続き、向こう3年間は、白馬村でセカンドスクールを行う。
- ・本校が目指した理想とするセカンドスクールに成りつつある。更なる体験活動の充実を図る。
- ・今年度、はじめて実施した食肉加工体験は、生徒の作業効率の向上が必要と思われる。

## 第二中学校

5月27日～5月31日(4泊5日)

## ○日程表

5月27日(火)		5月28日(水)		5月29日(木)	
7:00	学校集合・出発式				
7:30	出発 所沢ICより関越自動車道 六日町IC下車 浦田へ			8:30	農家とのお別れ式
12:40	体験交流センター着	全日		9:00	森の学校キョロロ・美人林見学
13:30	開校式				
14:00	「田植え体験」	「農家体験」		14:00	工芸体験
				16:00	活動終了
16:30	民泊農家との顔合わせ			16:30	宿舎(千歳)着
17:00	各農家へ異動			20:00	「体験のまとめ」
				21:00	班長会・部屋会議
	農家泊	農家泊		22:30	就寝

## ○前年度との変更点

昨年度のセカンドスクールでは、松之山浦田地区で実施してきた農家泊・農家体験が、高齢化・過疎化等の理由により1泊に縮小され、キューピットバレーの体験施設やロッジでの体験活動を行った。しかし、対予算効果が思ったほどあがらず、その体験活動及び体験施設を全面的に見直すこととなった。そこで本年度は、自然との触れ合いや農家体験の充実という観点から、松之山浦田地区での農家泊を2泊に戻すことにした。

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

## ① 事前の学習内容

- ・社会科…新潟県について、地形や気候・産業等の全般的な知識を学習した。
- ・理 科…農業体験や自然観察の時に役立つよう、植物について全般的な学習をした。
- ・技術科…インターネットを利用し、新潟県松之山に関する様々な情報を集めさせた。
- ・総 合…各自がお世話になる農家の方へ自己紹介の手紙を作成した。

雪国の中山間地域での暮らしを学習し、体験活動について考えさせ、環境の学習の理解を深めさせた。

# 新潟県十日町市

参加人員 男子37名 女子29名  
計 66名

5月30日(金)		5月31日(土)	
6:30	起床	6:30	起床
8:30	出発 大巖寺高原着 「自然観察ハイキング」  「自然観察」	8:30	宿舎発
15:30	宿舎着	9:00	林業体験 「松之山の自然、美人林見学」
19:30	「4日間の発見のまとめ」	12:00	閉校式 松之山発 塩沢石内 IC より関越自動車道へ 練馬 IC より学校へ
21:00	班長会・部屋会議	15:40	学校着
22:30	就寝	16:00	合同学活後解散

## ② 事後の学習内容

### ・民泊農家へのお礼状づくり

生徒一人一人がお世話になった農家の方へお礼状を作成した。封筒の宛名書きを含めて、総合的な学習の時間に一斉に書く時間を設けて実施した。

### ・セカンドスクール壁新聞づくり

5日間の体験活動で集めた情報（インタビューの内容、パンフレット、写真、レポート）などを模造紙にまとめ、壁新聞を作成した。この壁新聞を土台にポスター・セッションを行った。

### ・セカンドスクールのポスター・セッション

班ごとに作成した壁新聞と、新たに準備した資料を用い、ポスター・セッションを行った。

### ・伝統料理の再現

総合の時間を利用し、松之山の伝統料理について学習した。その後、生徒が田植えをし、収穫した米で、松之山で味わった伝統料理を再現した。

## ○特色ある活動内容

### 1、田植え体験

小学校のセカンドスクールの活動内容によっては、小学校で田植え体験をし、さらに中学校でも田植え体験をすることになる生徒もいるが、ここ数年、本校に入学してきた境南・桜野両小学校の児童は、秋のセカンドスクールを体験しているので、農家が持っている水田で田植えをするという体験は初めてである。

初めての水田の感触に、いろいろな喚声が飛び交った。植え付けの深さも良くわからず、ただ置いているだけだった生徒も農家の方々の指導の下、最後は与えられた水田全てにしっかりと植え付けることができた。



【田植えをしている様子】

### 2、農業体験

本校のセカンドスクールのメイン活動として位置づけている体験である。田植え体験の後、松之山浦田地区の約20戸の農家に分宿し、その農家の方の指導で農業体験をするプログラムを組んでいた。



【畑にてネット張りを行う様子】

昨年度は、1泊2日での実施であったが、生徒から「もっとおじいちゃん、おばあちゃんとたくさん話したかった。」という感想もあり、本年度は2泊3日の実施が実現した。

畑仕事を手伝ったり、山歩きをし、山菜を取りに行ったり、「あんぼ」と呼ばれるこの地方ならではの菓子づくりをしたりと、工夫を凝らした体験活動をさせていただいた。ほとんどの生徒が、おじいちゃん・おばあちゃんとの別れを惜しみ、5日間を通して1番印象に残り、楽しかった体験であったと言っている。

### 3、大巖寺高原でのブナ林観察

第二中学校では、松之山でセカンドスクールを実施するようになって以来毎年訪れている場所である。インストラクターの説明を聞きながら、ブナ林をハイキングした。そこで、生徒たちは様々な植物や昆虫などを発見し、その都度インストラクターから専門的な説明を受け、学習することができた。中でも、葉笛の作り方・吹き方を教わることで、生徒の興味も高まっていたようである。

### 4、林業体験

本年度から実施された体験である。初めての試みということで、インストラクターから林業に関する説明を受け、松之山のブナ林の手入れと、ブナの苗木の植え付けを行った。

見通しの良い開けた山の斜面を利用して行ったのだが、残念なことに雨が降ってしまい、足場がぬかるみ、作業は困難だった。しかし、雨具を着ながらも、初めて行う林業体験に、生徒の表情は真剣で、無事に全ての作業を終えることができた。達成感を感じながら、セカンドスクール最後の体験を締めくくった。

## ○生徒の感想

中学校に入学し、2ヶ月を経たずして始まるセカンドスクールであったが、各クラス2名の実行委員や係の生徒が中心となり、全体をよく動かしていた。実行委員の生徒に関しては、1年生全体から意見を集め、期間中のルール作りをしたことや、当日、全体の動き方の指示を出す姿などから、リーダーとしての成長を感じることができた。また、1年生全体を見てもこのセカンドスクールを通して、成長していると感じた。ある生徒が、「セカンドスクールは、たくさんの人と助け合えたことで、成功できたのだと思う。」という感想を書いた。生徒自ら、集団行動の中で助け合う・協力することの大切さを感じることができたセカンドスクールだったことが窺える。

また、ほとんどの生徒が「東京と違うところをたくさん発見することができた。」「東京にも緑を増やして、過ごしやすくしたい。」などという感想を書いており、“素朴な伝統や自然を大切にしようとする態度を育む”という今年度のセカンドスクールの目的を十分に達成できた。

## ○保護者の感想

- ・農家ででの体験も非常に楽しかったようで、また行きたいと話していました。
- ・小学校でもそうでしたが、セカンドを終えてまた一回り成長したようです。

## ○総合的な学習の時間との関連について

本校では事後の学習として、セカンドスクールで体験したことや、インタビュー等を通して分かったことなどを班ごとに壁新聞にまとめ、発表をするポスターセッションを行った。この取り組みは、「誰にでも分かりやすく課題解決策を提示するプレゼンテーション能力の育成」を目的に準備を進めた。今回の発表の様子を見ると、統計をグラフ化する班や、発表の中でクイズを取り入れる班もあり、聞き手を引き込む工夫が見られ、発表を通して課題への理解を深めることも十分にできた。

## ○小学校セカンドスクールとの関連について

本校では入学してくる生徒の、小学校セカンドスクールの実施時期が春と秋でずれているため、季節の違いを生かした別の活動を組むことができる。しかし、活動プログラムは、小・中学校双方にとって、教育課程にも関わる重要なものであるだけに、小中連絡協議会等を利用し、積極的に情報交換を進めていく必要がある。

今年度の小中連絡協議会で出た意見の1つに「近年、児童・生徒の芸術的感覚が鈍ってきている」という話があった。中学校以前での芸術活動不足が原因ではないかと考えられる。そこで、砂浜での造形活動や大自然の中での写生などを、授業では実践しにくい活動をセカンドスクールに取り入れてみてはどうかという案が出た。まだまだ検討段階であるが、小・中学校のセカンドスクールが断続的なものにならないためにも、小・中学校間での意見交換が大変重要であると感じる。

## ○次年度に向けての反省・課題

昨年度1泊だった農家泊を2泊にしたことによって、農家の方々と余裕を持って触れ合うことができ、充実した体験活動を行うことができた。しかし、受け入れ農家の方々の高齢化が進んでおり、2泊は難しいと言われていたが、農家の連絡調整を十分行うことで来年度も2泊で進めることが可能になった。また、林業体験に関しては、今年度、土壌整備・植え付けを行ったブナ林を来年度以降も継続して手入れをすることになっている。ブナ林の担う役割など、実際に山の斜面を歩き、作業等を実体験することで環境問題などと関連付けた学習効果も高まったといえる。

## 第三中学校

5月16日～5月20日(4泊5日)

## ○日程表

5月16日(金)		5月17日(土)		5月18日(日)	
7:35	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
12:30	昼食	8:30	農業体験(田植え・蕎麦まき)	8:30	宿舎出発
13:30	上伊那農業高校体験学習	12:00	昼食		小熊山トレッキング開始
	*摘果	13:30	体験学習		*班行動
	*食品分析		*蕎麦打ち	11:30	*パラグライダー発着基地で昼食
	*チェーンソー		*ジャム作り	15:00	サンアルピナ鹿島槍スキー場出発
	*牛の胃液	17:00	スタンプ練習	15:20	宿舎着
	*トラクター	18:00	夕食	17:30	夕食
16:45	宿舎着、開校式	20:00	入浴	18:00	スタンプ練習
17:30	夕食	20:30	班会議	19:00	入浴
18:20	稲作講義	22:00	就寝	21:00	班会議
19:30	入浴			22:00	就寝
20:30	班会議				
21:30	就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

## ① 事前の学習内容

入学後1ヵ月余りで実施という事もあり、オリエンテーションも兼ねながら、それぞれの教科の授業内で事前学習を行った。

- ・国語科・・・俳句についての基礎知識(切れ字・季語など)を学習した。
- ・社会科・・・地図帳を用い、地形や交通網の整備について学び、気候や地形と産業の関連についても考えた。
- ・理科・・・上高地に生育する植物の基本的な構造について学習した。
- ・音楽科・・・歌唱のオリエンテーションとして、歌う姿勢、口のあけ方、発音の仕方の順で指導を行った。
- ・家庭科・・・食品加工(蕎麦打ち・ジャム作り)について学習した。
- ・技術科・・・自然の中での樹木の役割を通して木製品について考えさせた。
- ・総合学習・・・体験活動から総合学習のテーマに基づく課題設定の仕方を考えさせた。後で作成する班新聞と個人ファイルの作り方を学んだ。

# 長野県大町市

参加人数 男子62名 女子60名  
計122名

5月19日(月)		5月20日(火)	
6:30	起床	6:10	起床
7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	宿舎発(バス)	8:30	閉校式(駐車場)
9:00	鹿島川河原着 *飯盒炊飯 (カレーライス・寒天ゼリー作り)	8:40	宿舎出発
		9:50	国営アルプスあずみの公園着 *安曇野の映画鑑賞 *館内見学・体験学習 *公園トレイル
15:00	宿舎着	12:30	公園内で昼食
15:30	スタンプ練習	13:10	公園出発
17:30	夕食	15:00	談合坂SAにて休憩
18:30	キャンプファイヤー 開始	16:45	学校到着
19:40	終了後、入浴		帰校式
20:30	班会議	17:00	解散
22:00	就寝		

## ② 事後の学習内容

- ・国語科 . . . セカンドスクールの体験にもとづき、俳句を個々に作らせた。
- ・社会科 . . . 1学期の後半に学習する身近な地域の学習と関連づけさせた。
- ・理科 . . . 上高地での植物のスケッチをもとに、植物の種類について学習した。
- ・音楽科 . . . セカンドスクールで経験した歌う喜びを授業の中で生かしていった。
- ・家庭科 . . . 食品加工、貯蔵の原理・方法など、体験学習をもとに学習した。
- ・総合学習 . . . 体験学習をもとに、壁新聞(班)作りを行った。また、個々に興味関心を持った事柄について調べ、個人ごとにまとめ学年全体で発表した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、小熊山トレッキング

木崎湖畔の宿舎から小熊山山頂を經由し、サンアルピナ鹿島槍までのコースを6時間かけてトレッキングを行った。植物の生育や小熊山の地形など、実際に体感し、山菜を摘みながらの活動となった。晴天にも恵まれ小熊山の持つ美しい自然を満喫する事ができた。山頂から見下ろす景観の良さに生徒は大喜びであった。



【小熊山山頂の昼食風景】

## ＜学習体験活動＞

### 1、上伊那農業高校

各科ごとの農業体験を行った。生徒の希望に応じて、リンゴの摘果・動物とのふれあい・人工種子・加工トマトの播種・チェーンソー・トラクターに分かれ、教員と高校生が指導する実習に参加した。生徒にとって、農業高校の授業の特色と内容を知ると共に、貴重な体験学習ができた。

### 2、アルプスあずみの公園

安曇野の台地に生きる蝶をテーマにした映画を鑑賞し、自然の役割を学習した。また、川魚の水族館を見ながら自然環境保持の大切さを知り、長野県内で採れた木の実や木材を用いたおもちゃづくりを行った。公園内を散策「トレイル」は自然を満喫しながらのものとなった。

## ＜生活体験活動＞

### 1、田植え体験

前日に宿舎ごとに地元の農協の方を講師に迎え、イネの性質から稲作の生育方法全般について学習会を行い、翌日の田植えの方法など具体的に教わった。実際の田植えでは、学級ごとに一反の田植えを行った。教わった通りに田植えが出来、講師からも褒められて生徒も大喜びであった。

### 2、食品加工体験(蕎麦打ち、ジャム作り)

全員が班毎に分かれ、蕎麦打ち・ジャム作りを行った。地元の方を講師に迎え、蕎麦粉・ブルーベリーの材料から加工方法までの説明を聞き、実際の加工体験を行った。身近な食品だけに、興味を持って取り組んでいた。

### 3、飯盒炊飯

鹿島川の河原にて飯盒炊飯を実施した。班毎にカレーライス・寒天ゼリー作りに取り組んだ。風向きや薪の組み方などを考慮し、河原の石での釜戸作りでは、各班が試行錯誤していた。川原の水で冷やして作った寒天ゼリーとあつあつのカレーライスを食べる生徒の顔は、満足感にあふれていた。地域の方々の自然環境に関する配慮を強く感じる事ができた。

## ○生徒の感想

- ・スローガンである「人や自然と友達になろう」「自然に親しみながら信頼関係を築こう」は今回わたしたちにピッタリだと実感した。そしてそのスローガンをこの 5 日間でマスターできたことを1番嬉しく思う。この体験は一生忘れられないものになった。
- ・セカンドスクールを通して多くの仲間を作ることが出来た。クラスが1つになった。
- ・蕎麦打ちの体験では自分で打った蕎麦を食べたけど、以外においしくてよかった。
- ・山の空気がすごくおいしかった。親友との夜は楽しすぎて顔がニヤけてしまうぐらい楽しく眠れなかった。
- ・食事がとてもおいしかった。お世話になった宿のみなさんありがとうございました。
- ・4日目の夜に雨が降ってしまい、キャンプファイヤーが室内になってしまったことは残念だった。しかし、室内でもクラスのスタンツやフォークダンスが盛り上がり良かった。

## ○保護者の感想

- ・この4泊5日を通して、子供にとって東京では味わうことのできない貴重な体験が出来てよかったと思います。
- ・体調を崩した子供にも適切に対応していただき、ありがとうございました。
- ・4泊5日のうちに子供が大きく成長したように感じました。家庭に帰ってきた後、楽しそうに話す子どもの顔が印象的でした。

## ○総合的な学習の時間との関連について

セカンドスクールでは、日頃体験できないような貴重な体験学習を実行することによって、生徒は、身近な生活に対して、自分の経験をもとに新たな視点を持つものである。この視点は、更なる興味・関心や新たな疑問を引き出すものである。こうした生徒の興味や関心を総合学習として発展させていくことは、生徒にとっても良い機会になると考える。

<学習の流れ>	<生徒・教師の活動>
①教師による学習テーマの設定	○学習テーマ「自然・環境等の問題」
②生徒による学習課題の設定	* セカンドスクールでの体験予想からの課題設定 * 課題例からの課題選択
③調べ学習・体験的な学習（Ⅰ）	* セカンドスクールでの体験学習の実際
④生徒による発展課題の設定	* 設定・選択した課題の深化・発展による具体化
⑤調べ学習・体験的な学習（Ⅱ）	* 設定・選択した課題に対する調べ学習
⑥生徒による学習成果の発表	* 文化祭での班・個人による掲示発表 * 学級・学年での展示・口頭発表
⑦学習成果に対する評価活動	* 展示・口頭発表に対する評価活動

## ○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校のときに体験した田植えを生かして、稲の成長や専門知識を学び、クラスで一反の田植えを行った。小学生から触れる機会が重なり、総合学習で「稲」に関するテーマを個人学習で進める生徒が多く理解が深まった。

## ○次年度に向けての反省・課題

上伊那農業高校や地元の民宿とも協力的な関係が築かれているので、次年度も教育課程の一環として継続していく。トレッキングでは生徒の体力・身体的なことを配慮し「小熊山」のトレッキングを行ったが、テーマである「自然・環境」にも即した体験ができた。また、このトレッキングでは、初めての班行動を行い、リーダーの育成にも効果があった。

課題として、小学校でもプレセカンド・セカンドをやっているもので、学校でできるものと大町市でしか体験できないようなことをじっくり考えて、内容や日程を再検討していく必要がある。

# 第四中学校

5月30日～ 6月3日(4泊5日)

## ○日程表

5月30日(金)		5月31日(土)		6月1日(日)	
7:30	市役所前	6:00	起床	6:00	起床
8:00	バス発	6:30	朝食準備		朝食
12:10	昼食	7:15	朝食		農業体験
14:10	うるぎ星の森着	8:15	周辺散策	12:00	昼食・お別れ式
15:30	夕食準備	12:00	昼食	13:20	田植え体験
17:00	夕食	12:45	うるぎ星の森発	17:30	旅館着
19:30	キャンプファイヤー		各農家へ移動	18:10	夕食
			対面式・農業体験		入浴
22:00	消灯		夕食・入浴	22:00	消灯
			(農家泊)		
		22:00	消灯(農家泊)		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・ 個人新聞の作成  
(内容) 東京から飯田市までの道のり  
長野県や飯田市について  
尖石遺跡について  
飯田市の農業と農家の人々  
米・稲作について  
りんごの品種や栽培方法について
- ・ 農家への挨拶状・自己紹介カード作り
- ・ スローガン作り
- ・ 生活の決まり作成(服装、持ち物、など)
- ・ レクリエーションについての企画・練習
- ・ キャンプファイヤーの出し物の企画・練習
- ・ 係会による係活動内容の確認



【田植え体験】

# 長野県飯田市

参加人数 男子79名 女子69名  
計 148名

6月2日(月)		6月3日(火)	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	旅館発	8:45	旅館発
8:40	風越山麓公園着	10:45	尖石縄文考古館着
9:00	登山開始	12:00	尖石縄文考古館発
11:30	虚空蔵山頂 休憩	12:20	昼食(おぎのや諏訪店)
13:00	風越山麓公園着 昼食	13:30	出発
15:50	旅館着	16:50	市役所駐車場着
18:00	夕食	17:00	解散
19:00	レクリエーション大会(～20:40)		
22:00	消灯		

## ② 事後の学習内容

- ・実行委員会作成のアンケートを実施しその結果をまとめ、学年集会で総括した。
- ・一人当たり農業体験を含む二つのテーマを選び、大きい画用紙(B4)に事後学習新聞としてまとめ掲示発表した。
- ・しおりをまとめ、感想の作文を書いた。
- ・国語の時間にお世話になった農家へお礼の手紙を書いた。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、風越山麓の虚空蔵山(こくぞうやま)登山

飯田市の北西部郊外にある標高 1,130mの虚空蔵山こくぞうやまに登った。例年の富士見台高原登山はロープウェイ点検のため、今年度は虚空蔵山こくぞうやま登山となった。

山頂が狭く見晴らしポイントが少ないという難点もあるが、中学生に適切なコースであったことを考えると来年も虚空蔵山こくぞうやまでよいと思う。

インストラクターの方が登山途中や下山後、山道の石楼にまつわる話や風越山麓の自然や野生動物の話をしてくださった。地域の方の地元の自然を愛する思いや、人間と自然動物との共生について深く考えさせられ、生徒たちは熱心に話を聞いていた。

## <学習体験活動>

### 1、尖石縄文考古館

5日目帰路に、諏訪にある、尖石考古館に立ち寄り、貴重な縄文時代の土偶（国宝縄文のビーナス）や磨製石器を研ぐために使ったといわれている尖石などの実物を見学し、社会科の学習として大変貴重な体験ができた。天気が悪く、外の遺跡で竪穴式住居等の見学ができなかったのが残念である。

## <生活体験活動>

### 1、キャンプ体験

「うるぎ星の森オートキャンプ場」で行った。新しい施設で整備されており、一校貸切、またキャンプ場の方々も丁寧に配慮してくださり非常に良かった。

生徒たちは飯盒炊さん（カレーライス）、朝食（オープンサンド）準備を行った。森の中のキャンプ場は自然に満ち溢れ、周囲を気にせずキャンプファイヤーも楽しむことが出来た。ただ、キャンプファイヤーが始まると同時に風が強くなり途中で中止になってしまったのが残念である。標高の高い山でのテント泊であったが、防寒についての事前の指導が徹底したこともありみな元気であった。2日目の朝は雨天で周辺散策はほとんどできなかったが、少し疲れている生徒もいたのでよい休養になったと思う。自然の厳しさとその自然が見せる美しさの両面が体感できる有意義なキャンプ体験であった。

### 2、農家泊と農業体験

2日目の午後から3日目の昼食まで、4人程のグループになり、売木村とその周辺の各農家へお世話になった。各農家は生徒の受け入れには慣れており、南信州観光公社が受け入れ先の調整をしてくれた。生徒たちは各々事前に農家へ自己紹介カードとご挨拶の手紙を書き、当日を迎えた。

農家では大変歓迎してくれて、子どもたちもその日のうちに、農家の方々とうち解けて、嬉しそうに農業体験をしていた。挨拶状送付時に生徒の顔写真をはった自己紹介カードで顔と名前が一致し、好評だった。

36軒の農家に分泊し、りんごの摘果、野菜の種まきなど、農家の仕事を体験できただけでなく、各家庭の温かいもてなしを受け、一様に大変満足して帰ってきた。ほとんどの生徒が事後作文でこのことを書いており、セカンドスクールで最も印象に残る思い出のようだ。

また、3日目の午後には売木村の田んぼを使って田植え体験を行った。ほとんどの生徒達は前日に引き続き同じ地区の方との体験となり楽しみながら田植え体験ができた。

## <地域の人々とのふれあい>

前述の通り、売木村で田植え体験を行った。村の人に優しく教えてもらいながら田植えを通して地域の方々と楽しく交流を持つことができた。

## ○生徒の感想

- ・私が、セカンドスクールで一番心に残ったのは、農業体験です。
- ・農家体験はとても楽しかった。農家のお父さん、お母さんと美味しいご飯を食べながらいろいろな話をしたのが1番の思い出です。
- ・キャンプ場でのカレー作りが楽しかった。にんじんやじゃがいもが少し固かったけど美味しくできた。
- ・4日目のレクリエーションは実行委員が良く準備してくれて、クラス対抗のゲームはとても盛り上がった。また、最後の指導員の方々の歌も楽しく、もう最高でした。

## ○保護者の感想

4泊5日という長い期間で最初は、不安でしたが、終わって帰ってきたときには様々な体験をした話を聞かせてくれ、充実した5日間をすごしたのだなと安心しました。特に、農家泊、レクリエーションは楽しかったらしくいろいろと話してくれ、貴重な体験ができたのだなと感じています。

## ○総合的な学習の時間との関連について

1学年の総合的な学習の時間のテーマは「ともに生きる力をつける」である。自然や環境との共生も考えて学習を進めるにあたり、今回のセカンドスクールはその基礎となるものである。農業体験や自然体験を通して実体験したことが生かされていくことと思う。

## ○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校でもセカンドスクールを経験していることもあり、自然と触れあったり、地域の方々と交流したりすることにはごく自然に、そして興味を持って入っていけると思った。

## ○次年度に向けての反省・課題

自然との共生、人との共生、そして日常と違う生活体験を共にすることによって、協力することの大切さや仲間の良さを知る、という目的は達成できたと思う。また、さまざまな事前の活動も生徒が受身でなく、実行委員を中心とし自分たちの役割に一人一人が積極的に取り組めた点は非常に評価できる。これをこれからの学校生活でも生かし、伸ばしていけるよう指導していきたい。

また、生徒の中で非常に印象が強かった農業体験では、昨年度までは実質1日の体験時間であったが、今年度は3日目の午後も田植え体験としたため慣れ親しんだ村の方と楽しそうに活動していたので来年度も売木村での体験活動を続けられればと思う。しかし、その実現には農家の協力が不可欠であり、難しい課題もあるようであるが、今後実現に向け努力していきたい。来年度は、春から秋に日程が変わるのでまた新たな問題も出てくるとは思われる。

## 第五中学校

9月25日～9月29日(4泊5日)

## ○日程表

9月25日(木)		9月26日(金)		9月27日(土)	
8:00	出発式・バス発車	8:30	宿舎発	8:30	農家体験へ出発
12:00	安曇野着	10:00	上高地着		農作業体験
13:00	わさび田農作業体験		上高地班別ハイキング		昼食づくり
	大王わさび農場見学	14:30	上高地発		農作業体験
19:00	わさび漬けづくり体験	16:30	宿舎着		夕食づくり
21:00	実行委員会・班長会・班会議	19:00	レクリエーション大会		民泊
		21:00	実行委員会・班長会・班会議		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

## ① 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間を利用し、各クラスの5つの班が、「安曇野周辺の地理」「歴史・生活・文化」「産業、とくに農業」「水」「北アルプスや安曇野の動植物と星座」のテーマを分担し、さらにテーマを細分化した5～6の課題について、各自が調べ学習を行った。インターネットや書籍を利用して各自が新聞形式にまとめたものを冊子にして、各クラスで学習発表会を行った。
- ・2学期の社会科の授業において、地形図の見方や長野県の地理について学習した。
- ・農家体験でお世話になる各農家にあいさつの手紙を出すため、国語科の授業において「手紙の書き方」を学習し、すべての生徒が農家宛の手紙を書いた。
- ・農家体験を充実したものにするため、農家班ごとに質問内容を検討し、体験当日にする質問をまとめた。

## ② 事後の学習内容

- ・各生活班ごとに「わさび田・わさび漬けづくり・大王わさび農場」「宿舎周辺散策」「上高地」「農家体験」「光城山・長峰山登山」の5つのテーマを一人ずつ担当し、しおりに記入してきた生活記録や写真を活用し、イラストも入れた学習新聞を作成した。それを班ごとに模造紙にレイアウトして貼り付け、班の事後学習資料を作成した。
- ・学校公開週間に、保護者も参観する中でクラスごとに事後学習発表会を行った。生徒が各班の発表を評価し、各クラスの優秀班が、その後の学年集会で代表発表を行った。

# 長野県安曇野市

参加人数 男子43名 女子39名  
計82名

9月28日(日)		9月29日(月)	
8:15	農家の方とお別れ会	9:00	宿舎周辺散策
9:30	登山へ出発		スケッチ 俳句作り
	光城山登山		
	長峰山登山	13:00	閉校式
12:00	長峰山頂着 昼食	13:30	宿舎発
	スケッチ	16:30	学校着
15:00	下山口着		解散式
19:00	キャンプファイアー		
21:00	実行委員会・班長会・班会議		

・「セカンドスクールのしおり」に毎日の学習内容や体験内容、感想などをすべて記入して完成させた。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、上高地班別ハイキング

事前に計画を立てた約5時間のコースを班長を中心に班ごとにまとまって行動した。多くの班は田代池から大正池を巡るコースを選択し、4つの班だけが明神池方面へのコースを選択していた。途中から風雨が強くなり、厳しい状況であったが、各チェックポイントの教員や指導員のアドバイスも参考にしながら、時間と状況を判断して見学地を省略したり、コースを変更したりしながら、15の班すべてが規定の時間内に集合場所に戻ることができた。天候の関係で上高地本来の魅力を味わえなかったかもしれないが、途中で雲の切れ間から見えたアルプスの壮大さや、野生の猿との出会いが、生徒たちの印象に深く残った。

#### 2、宿舎周辺散策

ビレッジ安曇野周辺の「憩いの池」(日本の名水100選)やわさび田遊歩道、わき水探索路、水田などをグループごとにまわりながら、スケッチの題材を探したり、俳句作りをしたりしながら散策した。安曇野で過ごす最後の日に、宿舎のすぐ近くにも豊かな自然があることを実感できた活動であった。あいにくの雨のため、スケッチは宿舎に戻ってから研修室で行った。

## <学習体験活動>

### 1、農家体験(野菜や米の収穫・農家の諸作業など)

4～5名が18の農家に分かれて様々な体験を行った。コンバインによる稲刈りや、さつまいも、枝豆、トマト、とうもろこしなどそれぞれの農家ならではの作物を収穫したり、米の袋詰め作業やスタンプ押しなど、出荷に関わる作業を体験したりした。とりわけ、自分たちが収穫した作物を調理して食べる体験では、都会ではできない感動をおぼえた生徒も多かった。

夜には事前に考えていった質問に答えてもらい、農家としての苦労や、やりがいについても学習することができた。

### 2、わさび田農作業体験

宿舎からマイクロバスで5分ほどのところにあるわさび田で、わさびの収穫を体験した。生徒たちはまず、わさび田の水の冷たさに驚いていた。そして、収穫前のわさびを見るのが初めての生徒がほとんどだったため、新鮮な驚きを感じていた。わさびの葉と根を取り除く作業に喜々として取り組み、たくさんのわさびを収穫することができた。

## <生活体験活動>

### 1、わさび漬けづくり体験

講師の方から作り方の手順を聞き、2人1組でわさび漬けをつくった。酒粕のにおいに顔をしかめる生徒もいたが、わさびのいもを包丁で細かくきざみ、酒粕と混ぜるというシンプルな作業だったため、どの生徒も生き生きと活動していた。数時間前にわさび田でわさびを収穫したばかりだったので、それを加工して製品にするという地方産業の一端に触れることができたと感じる生徒もいて、体験活動としての意義が大きかったといえる。

## ○生徒の感想

- ・セカンドスクールの中で1番思い出に残っているのは農家体験です。野沢菜の間引き、枝豆・にんじん・なす・おくらの収穫をして、農作業の大変さや楽しさを実感することができました。そのほかにも、散歩に行くと自然と触れあったり、農作業で収穫した野菜をたくさん使って料理を作ったり、まずそうだな、と思いながらがんばってイナゴを食べ、おいしいことを発見したり・・・いろいろな思い出ができました。
- ・本当の優しさ、そして本当に笑い合えたのは、農家泊が1番でした。あまり気にしていなかったお米だけれど、食べるときくらいは、感謝の気持ちをこめて、ありがたく食べるようにしていきます。
- ・ぼくはこのセカンドスクールを通して、あいさつの大切さ、喜び、うれしさ、気持ちよさなどがより深くわかったような気がしました。セカンドスクールで学んだことは普段の学校生活でも生かせると思います。またあの安曇野のきれいさ(自然)を、少しでも武蔵野市に取り入れていきたいです。一人でも多くの人が、小さいことを考えて行動すればきれいになると思います。

## ○保護者の感想

- ・帰宅してからも、農家の人たちが本当に温かく別れがたかったことや、自分で収穫した野菜を食べたときの喜びなどを生き生きと話してくれました。また小学校でのセカンドスクールとは違って、自主的な係活動など責任をもたなくてはならない場面が多かったことで苦労もあったようですが、ひとまわり成長して帰ってきたように思いました。

## ○総合的な学習の時間との関連について

年間計画において、1、2学期の総合的な学習の時間の中心をセカンドスクールに向けた事前・事後学習等に充てた。図書やインターネット等を使った事前学習の内容は、地理、自然、動植物、環境、産業など多岐にわたっており、まさに総合的な学習であったといえる。また、上高地班別行動でのコース決めで、地図や資料を参考に、さらに時間や見どころを考えながらグループで話し合っ決めていく過程と、実際に行動することで確認できた内容は、修学旅行での班別行動にも生かせる学習内容であった。

## ○小学校セカンドスクールとの関連について

泊数の多いセカンドスクールを体験していることで、4泊5日の中学校セカンドスクールにも抵抗感なく取り組むことができていると感じた。ただし、小学校セカンドスクールの詳細について考慮した上で立案しているわけではないので、関連性を深めていくことは今後の課題であると思う。

## ○次年度に向けての反省・課題

2日目の上高地班別ハイキングでは、予報により雨天となることは予想できていたが、現地ではそれに強風や冷え込みも加わって、健康面で心配な状況となってしまった。雨天プログラムは組んであったが、あくまでも荒天時という設定だったので、来年度以降も日程に組み込むのであれば、プログラム変更の基準をよりしっかりと確認しておく必要がある。上高地はぜひとも見せたい場所ではあるが、片道に1時間半を要する点でも再考の余地があると思われる。4泊の中で農家泊を3泊目に設定したのは良かったと思われる。集団宿泊の高揚感で1泊目に騒ぎすぎるなどの問題点があったが、それに対する指導ができた上で2泊目を迎え、さらに落ち着いた状態で3泊目の民泊に入ることができた。民泊についても1泊のみで余韻を残して終わることで生徒の感動が新鮮な状態で残された印象があり、次年度についても今年度と同じ日程でよいと思われる。



【農作業体験の様子】



【長峰山頂での昼食風景】

## 第六中学校

9月10日～9月14日(4泊5日)

## ○日程表

9月10日(水)		9月11日(木)		9月12日(金)	
7:30	武蔵境駅南口集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:45	宿舎到着 開校式	8:30	出発	8:15	出発
12:30	昼食	9:00	稲刈り体験	10:45	上高地ハイキング
13:00	オリエンテーリング	12:30	昼食		河童橋休憩
19:00	夕食	14:00	わさび掘り	12:30	明神橋 昼食
20:00	農作業体験講義		わさび漬け作り	15:00	上高地バスターミナル発
21:30	係会議	16:00	キャンプファイヤー練習	17:20	宿舎着
22:30	消灯	17:30	夕食	18:50	夕食
		18:30	キャンプファイヤー	21:30	係会議
		21:30	係会議	22:30	消灯
		22:30	消灯		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

## ① 事前の学習内容

- ・実行委員会組織作り
- ・実行委員によるパワーポイントを使った概要説明  
目標、日程、毎日のテーマ  
安曇野市について、稲刈りについて、わさびについて、上高地について
- ・きまりの討議、決定
- ・部屋班、行動班、民泊班、バス座席の決定
- ・係会議
- ・民泊農家の方々への手紙作成(自己紹介、写真)
- ・長野県の農業・工業・気候についてのワークシート
- ・「長野県」「安曇野市」「上高地」に関するものをレポートにまとめる。

# 長野県安曇野市

参加人数 男子40名 女子32名  
計72名

9月13日(土)		9月14日(日)	
6:30	起床	8:00	ビレッジ集合
7:00	朝食		閉校式
9:00	民泊対面式	8:30	朝食
9:30	各農家へ	9:30	スケッチ
	安曇野生活体験	12:00	昼食
	夕食	13:00	宿舎発
	民泊	17:00	武蔵境駅南口到着 解散

## ② 事後の学習内容

- ・ 反省アンケートの実施と集計
- ・ 感想文を書く
- ・ 民泊農家の方々へのお礼状作成
- ・ 民泊新聞作成と体験発表・・・民泊で学習したことを班ごとに新聞にまとめ、3月の学習発表会に宿舎や農家の方を招待し、体験発表会を行う。
- ・ 個人テーマ調べ学習・・・セカンドスクールでの体験などを基にして各自テーマを設定し、調べ、まとめ、発表する。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、上高地ハイキング

大正池を出発し、河童橋で休憩、左岸コースと右岸コースに別れて明神橋を目指した。明神橋で昼食をとった後、往路とは違うコースで河童橋まで戻った。生徒たちは班ごとに行動し、景色を眺めたり、写真を撮ったりしながら、自然を満喫していた。また班の係（地図係、時計係、写真係、記録係、保健・美化係）の役割をそれぞれ果たしながら、行程表に従って行動することができた。移動中はすれ違う人に挨拶をし、一般観光客と会話する場面も見られた。雲一つない絶好のハイキング日和であった。

## <学習体験活動>

### 1、農作業体験講義

初日の夜に現地講師を招き、翌日の体験学習のわさびの栽培や稲作に関する講義をしていただいた。わさびに関する講義は近所のわさび農家の方が、栽培に適した地形や水温、そして育て方から収穫までを説明した。また稲作に関する講義は、J Aあづみの職員が稲作についてパンフレットに沿って説明した。

生徒たちはメモを取りながら真剣な態度で講義を聞いていた。知識を深めるとともに大切に収穫しなければならないという意識もつけさせるのに大変有意義な時間であった。

### 2、稲刈り体験

安曇野で稲刈りを行って2年目である。開校式の後、地元の農業指導員10名がそれぞれ生徒8ペアを担当し、鎌の使い方や稲の束ね方などを指導した。はじめはぎこちなく稲刈りをしていた生徒たちも、すぐにコツを掴み、積極的に稲を刈った。また刈った稲を束ね、「はぜがけ」という伝統的な天日干しの仕方も実践し、コンバインによる収穫・脱穀も見学した。

生徒たちは一生懸命に稲刈りに取り組み、手作業で行うことや長時間に渡り中腰でいることの大変さを感じたようである。機械化が進んでいるとはいえ、米を作ることの大変さを実感したようだった。また田んぼにいた蛙やとんぼを捕まえて遊ぶ生徒もおり、自然に触れる姿を見ることができた。

昼食はビレッジに戻り、おにぎりを食べた。汗をかきながら体を動かし、稲刈りした後に食べるおにぎりは、本当においしく、米の大切さを実感させるものであった。



【稲刈り体験】

### 3、わさび掘り・わさび漬け作り

安曇野の澄んだ湧き水で栽培されたわさびは国内でも知名度の高い特産品である。地域の特産を生かしたわさび掘り体験は、生徒たちにとって貴重な体験となった。湧き水の冷たさと綺麗さに声を上げながら、丁寧にわさびを抜き、葉や毛根を取る眼差しは真剣そのものだった。

宿舎ではわさび漬け作りの指導もしていただいた。わさびを刻み、酒粕と混ぜ合わせて作るわさび漬は、地域の特産物としてのお土産になった。



【わさび掘り体験】

## ＜生活体験活動＞

### 1、民泊・安曇野生活体験

農作業体験（野菜の収穫・りんご狩り・野沢菜の種まき等）だけでなく、そば打ち・おやき作り・道祖神巡り・お祭り等、多岐にわたる活動を行うことができた。農家のどのご家庭にも早い時期から準備をしていただき、1泊だけではあるが、家族同様に接してくださった。その心遣いには生徒たちも感謝の念にたえない。武蔵野に帰ってきた後の生徒の感想からも、この民泊体験が重要な位置を占めていることが伺われる。

## ○生徒の感想

- ・稲を刈るときに、良い音がして、今でも覚えています。
- ・学校とは違うみんなの色々なところを知れた。
- ・安曇野の方々がとても温かく、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・キャンプファイヤーが盛り上がり楽しかった。
- ・セカンド実行委員がたくさん働いてくれて、すごく頑張ってくれたと思います。実行委員さんにも感謝です。
- ・上高地ハイキングでは景色に心をうばわれました。自然の素晴らしさを表しているようでした。

## ○総合的な学習の時間との関連について

年間計画の中で、セカンドスクールへの取り組みを中心に位置づけてきた。1学期は、調べ学習やまとめる手段として、パソコンの使い方を学習することから始まり、「長野」「安曇野」「上高地」に関するレポートを作成した。2学期はセカンドスクールでの体験などを基にして各自テーマを設定し、調べ学習の後、レポートにまとめ、3学期は民泊で学習したことを班ごとに新聞にまとめ、学習発表会で発表会を行った。

## ○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校のセカンドスクールと重複している活動内容はあるが、同じであっても発達段階に応じた活動となるように工夫している。

## ○次年度に向けての反省

毎日のテーマを明確にしたことにより生徒が意識を持って一日一日の活動に取り組めたように思う。指導員も教員との連携もうまく取れ、主体的・積極的に動いてくれたおかげで円滑に行程が進んだ。

改善点としては①行きの出発時間を少し遅くする。②オリエンテーションに使う地図を詳しいものにする。③緊急時受け入れ先病院の複数確保。④上高地ハイキングのスタートしてからの行動方法。があげられる。